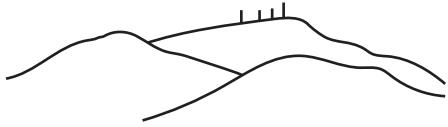


# Youth Manna

2020/8/31 - 9/6



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2020/8/31(月)

## Ⅱ 列王記 25:22-30

今日で列王記は終わりです。列王記を読み終えて、みんなは何を神様から受け取ったかな？

これまで多くの王様が登場したけれど、聖書はその王様たちが神様の目から見てどのように歩んだかを偽りなく書き記していたね。最終的にエルサレムは滅ぼされ、民はバビロンへ捕らえ移されました。だけど、愛する民が罪によって神様から離れていく歴史を見続けることで最も苦しみ悲しまれた方は神様です。そして人々が神様に立ち返る道を神様は備えられました。

どんなに人間に裏切られ続けても、それでも愛によって永遠の希望に向かわせてくださる方が私たちの信じている神様です。このお方に目を向けて、今日も歩もう！

2020/9/1(火)

## ルカ 20:1-19

祭司長たちと律法学者、長老たちは、敵意(19:47)を持ってイエス様に質問をしましたが、逆にイエス様に問い返されました。彼らが答えることが出来なかったのは、神様の心よりも自分たちのことだけを考えていたからです。こうして彼らは悔い改めて神様に立ち返る機会を逃してしまいました。

9節からの話は、ぶどう園の主人が神様、農夫たちがユダヤ人指導者、息子がイエス様をたとえています。17節を読もう。そこにはイエス様が要(かなめ)の石だと書いてあるね！私たちの人生で、イエス様以上に大切なものがあってはなりません。自分の人生の真ん中にイエス様を迎えて、今日1日を歩もう！

2020/9/2(水)

## ルカ 20:20-26

義人のふりをした回し者がイエス様を訴えるために意地悪な質問をしましたが、イエス様はこの質問を通して神様の真理を解き明かされました。

「カエサルのはカエサルに」存在している全ての権威は神様によって立てられています(ロマ 13:1)。ですから、私たちが良い市民であることは神様の御心にならなければならないことです。学校や勉強、家の手伝いなど、今私たちがやるべきことをしっかりやりましょう！

「神のものは神に」神のものは何でしようか？これは献金のことだけを言っているではありません。私たち自身が神様のものだからです。自分のからだをもって神様の栄光を現すこと、これがクリスチャンの生きる目的です(1コリ 6:20) 今日、全てのことを神様のためにすることができるよう祈ろう！！

2020/9/3(木)

## ルカ 20:27-47

復活を否定しているサドカイ人は、結婚を繰り返した場合、死後の復活の後どうなるのかと論理武装をしてイエスに詰め寄ったが、イエスは、天国ではめとることも嫁ぐこともなく、死ぬこともない、この世とは違う新しい秩序の元にいると言われた。神を信じるものは永遠に生きるのである。

しかし、今の限りある世界に生きる私たちには、永遠の世界、新しい秩序を完全に理解することはできない。

あなたは救いをどのようにみているだろうか。自分の期待、考え、願いとは違うかもしれない。しかし、どのようなときでもイエスこそ私の救い主だと信じて歩む者となろう！！

2020/9/4(金)

## ルカ 21:1-19

貧しいやもめがレプタ銅貨二枚を献げました。今で言うと百円ほどのお金です。しかしそれは彼女の全財産でした(4)。イエス様は彼女の心と信仰をご覧になり、称賛され、聖書に書き記され、永遠に語り継がれる話となりました。

私たちが神様に献げるものはどうでしょうか。神様は全財産を献げるようには命じておられません。しかし、私たちが献げるものが、余ったお金、余った時間、余った力となっていないでしょうか。

神様が求めておられるのは、物ではなく、私たち自身です。これだけは手放せないというものがあつたら、信仰によって神様に明け渡そう！永遠に残るものを見続けよう！！

2020/9/5(土)

## ルカ 21:20-38

今日の箇所ではイエス様が「終わりの時」について語っているね。「終わりの時」「終末」と聞くとちょっと怖いような、不安な気持ちになる人もいるかもしれないね。

だけどそれは、イエス様を信じる人にとって、イエス様が御国に迎え入れるために再び来てくださる希望の時なんだ。その時に向けて、イエス様が語っている34-36節のアドバイスをよく読もう。

まず私たち自身、「終わりの時」に希望を持ち、神様に従って行こう！そしてその恵みに人々が加えられるよう、家族や友だちの救いのために祈ろう！

2020/9/6(日)

## ルカ 22:1-13

ここでは「最後の晩餐」の前のイエス様と弟子たちのやり取りが書かれています。イエス様を裏切ったイスカリオテ・ユダには「サタンが入った」と書かれています。イエス様の十字架への歩みの中で、裏切るユダすらも神様は用いられました。

また、最後の晩餐の準備に用いられたのは名もなきひとりの主人でした。聖書に名前を書かれることはなくとも、仕えたその主人を神様は用いられました。

私たち一人ひとりも、名もなき小さな者かもしれません。しかし、そんな私たちをも、誰にも見られていないような時にも、神様は目を留めて用いてくださるお方です。

自分が今仕えるべきこと、場所、人はなんでしょうか。どんな人をも用いてくださる主に信頼して、出ていこう！！